

次第

■ 1. 開会

■ 2. 自己紹介

■ 3. 議題

（1）文化創造ビジョン・岸和田 令和6年度の実績について

・府内における取組み

資料①に基づき文化創造ビジョンの「目標・施策一覧」について説明。

令和5年12月に策定した「文化創造ビジョン」の重点目標である「子供たちが文化・芸術にふれ、創造性や感性を育む」「効果的な情報発信および文化・芸術への関心の喚起」、基本目標の「I.創造する力と生きる力、感性豊かなこどもを育む」「II.輪を広げる」「IIIまちの魅力を高める」「IV.未来へつなぐ」を設定し、文化芸術振興の状況報告。

・資料Aに基づき、令和6年度の府内における取り組みを報告。

全98事業のうち、今年開催の万博に関する行事である「6.大阪・関西万博推進事業のイベント開催等事業」と、「25.国際交流事業の新たな姉妹友好都市締結に向けた交流会事業」が令和6年度からの新規事業として追加された。（組織の再編により、担当課表記が変更になっているものもあるが、実施事業の内容は基本的に変更はない。）

No.6大阪・関西万博推進事業のイベント開催等事業」は、今年4月～10月に開催された大阪・関西万博の機運を盛り上げるために、令和6年度に海をテーマにした「KISHIWADA EXPO」実施した。

担当課の自己評価としては「万博開催の機運を高めるとともに、海の魅力発信と環境保全意識の向上、地域産業の振興、次世代育成に資する内容となった」とあり、総合自己評価はAとなっている。

No.25「国際交流事業の新たな姉妹友好都市締結に向けた交流会事業」は新たな海外交流都市であるラ・ロシェル市に本市から音楽を学ぶ青少年を派遣する事業であり、令和6年度は現地の音楽家と交流し、現地でコンサートに出演した。帰国後も市民向けに成果発表会として演奏会を実施。担当課の評価としては「新たな事業展開の成果として音楽で表現することは、今までの青少年交流とは違い、目に見える形で成長を感じることが出来た。課題はあるものの、継続していくことで、よりよい事業展開が期待できる」とのこと、総合自己評価はSとしている。

課題として行政の事務手続き整理、文化以外の分野との調整があり、進めることによって交流人口の増加、成果発表会の充実が展望できる。

・行政の事業を基本目標、方向性ごとにまとめたものについて説明。

行政で実施している事業は全て基本目標を設定しており、本ビジョンでは第1～3目標まで設定することが可能である。令和6年度の実績は以下の通り。

基本目標Ⅰ 「創造する力と生きる力、感性豊かな子どもを育む」を第一目標とした事業数…25事業

基本目標Ⅱ 「輪を広げる」を第一目標とした事業数…31事業

基本目標Ⅲ 「まちの魅力を高める」を第一目標とした事業数…37事業

基本目標Ⅳ 「未来へつなぐ」を第一目標とした事業数…5事業

昨年度との比較は事業量の増加があるものの右の円グラフ「基本目標の割合」に大きな変化はなかった。なお、令和6年度の総事業費は14億5,280万9千円となっている。(但し、この数字は一部指定管理事業費を含んだものであるため、参考数値として提示)

(会長) ご意見ございませんか?

(委員) フランス国ラ・ロシェル市には何日行かれましたか?

(事務局) パリからTGVで3時間かかるため、パリで1泊を含めて、6日間になります。

ラ・ロシェル市のコンセルヴァトワールに所属している同世代の青少年2名と交流し、その後1~2曲共演し、最終的にはあちらのコンサートホールで演奏をしました。

こちらから派遣した青少年は岸和田文化事業協会でのジュニアコンサートで優秀な成績をおさめた2名(ピアノとバイオリン)です。あちらからピアニストとファゴット奏者が来岸し、今年は大阪・関西万博開催の年だった為、令和6年に派遣したこちらの2名のところにホームステイし、万博会場で演奏をしました。自泉会館でもコンサートし、岸和田市民にも聞いていただきました。

(会長) それはどれくらいの頻度ですか?

(事務局) 受入対応、派遣対応ともに隔年ごとで行います。

(委員) 話は変わりますが、Ⅲ7(アーティストインレジデンス)だけなにも達成できていないですが、岸和田市だから出来る事、作れるものを介して人々と交流することが出来ないのか、残念に思います。

(事務局) この件に関しては、従前この会議で議題に上がるが一向に進展がない、達成出来ていない事業だと思います。文化創造ビジョンを制作するときにも研究・検討をしたが、具体的な案を打ち出せていないのが現状です。様々な形態を研究する必要があること、また忘れないためにも今回も重点目標に入れさせていただきました。

(委員) きちんとした定義からは外れるかもしれません、三館合同事業など、講師の先生を招へいしてワークショップをしたことがあります。それでさえ、予算等もかかりました。もっと大規模になると予算的に、今の岸和田市では難しいことだと思います。対象を小さく絞って小学生や中高生だけにするなど、他にも井上委員のアウトリーチ事業などを継続して小さな芸術活動を積み重ねていけばいいのでは。実質的にアーティストインレジデンスは難しいと思います。

(事務局) 今一度アーティストインレジデンスの定義を確認すれば、「芸術家がある一定期間その地で衣食住をしながらその地域住民と交流すること」と認識しています。そこからインスピレーションを得たり、芸術に興味のない人も関心を持ってもらうという効果があると考えています。以前静岡県より講師の先生を呼び、神於山保全クラブの方と竹を使った共同製作品を作成しま

した。その時は数日間マンションに住まわれたものの、保全クラブの方たちと切磋琢磨し、かなり意見交換し、いい人間関係を築く事が出来ました。それがアーティストインレジデンスにあたるのかはわかりません。

(会長) 長期間の滞在でなくいいと思います。1泊からなど試験的に実施し、徐々に定着していけば協力して頂けるアーティストも出てくると思います。

(委員) 小規模でも実施している事を示し、協力団体も注目してくれるかもしれません。

(委員) 淡嶋にある知人のギャラリーに行き、一週間滞在制作してきました。衣食住を提供してくれる代わりにその場所にある材料を使い、その場所の特徴的なものを題材にした作品を制作、その後展示してもらいました。そういう場所が岸和田市にもあればいいと思いました。

(委員) 岸和田市が廃校や空家を提供してくれればと常に思っています。加えて、ここにおられる方も含め岸和田市の芸術文化を支えている方たちが声をあげればいいと思います。あえて言うなら未来の岸和田の芸術を支える子どもたち、その保護者の方がもっと関心を持っていただければ幸甚です。井上委員のように、小学校アウトリーチ事業をして年少時から芸術にふれそれを次世代に繋げていく、そんな地道な努力が必要だと感じます。岸和田市の財政を見ていると芸術には中々予算が回ってこないのが現状だと思います。

(事務局) 城崎のように宿泊棟や舞台まで作っているところもあります。瀬戸内地方にもあります。そういうイメージだという事でしょうか?

(委員) 岸和田市は公共施設を尚早に作ったように思います。北摂などは最近出来た施設が多く、芸術活動が活発に感じます。岸和田の公共施設も壊す前に市民に提供すればいいと思います。

(会長) 逆の発想から、まだ検討の余地があり、のびしろがあるという事だと思います。

(委員) 文化創造ビジョンを見ると、マドカホールの運営も当初は市民が運営していましたが、今の若い方にはそんな力がないので、我々が初心にかえり、もう一度「東の水戸・西の岸和田」と言われるようにしませんか?

(委員一同賛同)

・文化施設（浪切ホール・自泉会館・マドカホール）3館の取り組み

・資料B-1（浪切ホール分）に基づき説明。

浪切ホールでは全 51 事業実施し、実施事業ごとに公演を記載、計画での位置づけ、公演日、開演時刻、会場、入場者数、そして対象とするターゲット層、指定管理者の自己評価のコメントを記載することを説明した。総合評価（S、A、B、C）以外に「来場者の満足度」「入場率」「事業実施者の満足度」という側面も評価した。「来場者の満足度」はアンケート結果や来場者の反応や声を受け評価している。（すべての事業でA評価）「入場率」は設定した座席数のうち、7割が入ったものがA評価、それ以上はS評価とし、7割から6割までをB評価、5割以下はC評価。概ね高評価だったと言えるが、内容によっては集客が厳しいものもあった。「事業実施者の満足度」は事業の実施者として、意見、課題や反省点、また今後の企画にどう生かしていくのかを評価。浪切ホールの事業評価がほぼ計画通りであるA評価以上は 84.3%、残りの 15.7% がやや計画を達成しなかったまたは達成できなかったという結果になった。

令和6年度の成果の達成度を測る指標を見る限り、コロナ禍以前には戻り切っていない。それはネットやリモートを介した芸術鑑賞が出来ることも一因だと考える。日本古来よりの伝統芸能や前年から引き

続き繰り返し公演しているものについては評価が低くなる傾向がある。

・資料B-2（自泉会館分）に基づき説明。

自泉会館では全23事業実施している。（指定管理者である岸和田文化事業協会の自主財源から実施する自主事業と、市が委託している事業＝受託事業を合算）浪切ホール同様、実施事業ごとに公演を記載し、計画での位置づけ、公演日、開演時刻、会場、入場者数、そして対象とするターゲット層、指定管理者の自己評価のコメント、

S、A、B、Cからなる評価を記載している。34.8%が計画以上、56.6%が計画通り、A以上が9割となり、計画をやや達成できなかったが、8.7%となった。その2事業に関しては「七夕祭り」が猛暑で集客できなかったこと、文化の日祝典記念事業「アニソンファミリーコンサート」はファン以外の申し込みが少なかったことと考えられる。

・資料B-3（岸和田市立文化会館）に基づき説明。

評価の基準は浪切ホール、自泉会館同様、実施事業ごとに公演を記載、計画での位置づけ、公演日、開演時刻、会場、入場者数、そして対象とするターゲット層、指定管理者の自己評価のコメントになる。

17事業が対象となり、「計画以上の効果があった事業」が11.8%、「ほぼ計画通り」58.8%、およそ7割がほぼ計画通り、約3割が計画をやや達成できず、という結果になった。

原因として継続事業における入場率の低下が考えられる。次年度以降は市民への周知方法を工夫するなど改善すべき点だと思う。

・資料B

三館のまとめについて説明。

三館の来場者数は533,463名となっており、自泉会館・文化会館の利用者は前年を上回っているものの、浪切ホールの利用者数は433,173名と前年度を約2,000名下回っている。理由としては令和6年6月から利用料金が値上がりしたことが考えられる。

（会長）ご意見ございませんか？

（委員）浪切ホールの入場者数が激減しているのはなぜですか？

（事務局）料金の値上げに加え、開催規模の縮小が考えられます。（ホール全体を使用していたものが、一階席だけ使用したり、使用していた部屋の変更など）

（委員）イベントの主催者としての意見ですが、浪切ホールに関しては日程が集中すると抽選で、不確定な為に出演者の確保が困難、その為使用しない側面があります。

（事務局）市の公共施設の規約に基づいて料金等を取り決めています。

（委員）利用者数は主催事業も含まれていますか？浪切ホールの利用者減少も事業縮小に伴うものでしょうか？そして育成団体と個人的団体との差別化はあるのでしょうか？

（事務局）出演者や日程等が変わると変動するものなので、企画事業に関しては来場者は比較しづらいと思います。浪切ホールに関しては、全40事業以上はしないといけないと決まっています。実際は45事業以上を実施しています。浪切ホールの運営は指定管理者に委ねていますが、公平公正なるよう抽選としています。ご意見は報告しておきます。マドカホールに関して育成団体の利用に関しては、文化施策の一つで一部保護されている部分もあります。

(委員) コロナ後になって、利用状況も変化していると思いますので、前年以前と比較することは出来ないと思います。

(会長) 我が大学の学生を見ていると、大学生という年代は、自分で初めて興業のチケットを購入し、出かける世代だと思っていましたが、コロナ後は配信が主流になったため、そんな習慣さえなくなっています。

(事務局) 同じような事業が近隣の館で行われている、そして北摂の文化施設の建設に伴い、わざわざ一つの施設に集中して来場する必要がなくなりました。その影響もあると思います。

(委員) 配信もいいが、ライブで鑑賞することの良さも知ってほしいと思います。

・文化団体による取組み

- ・資料Cに基づき説明。
- ・令和6年度の岸和田市文化協会、岸和田文化連絡協議会の事業説明を行った。

(委員) 文化協会、文化連絡協議会の重点目標などありますか？

(委員) 毎年決まった行事を実施しています。それに伴い沢山の分科会を設置しています。しかし、会員の高齢化等が課題です。若者育成が出来ていないのが実情です。

(委員) 私は2期目ですが、文化サロンの実施が去年・今年と出来ていないのでこれから課題になります。情報誌「カルトリエ」の発行は年二回しています。公民館等に配付しています。それが文化振興に繋がっていってほしいと思っています。こちらも高齢化が問題です。

■ 3. 今年度の文化振興事業について

資料Dに基づき、今年度の文化振興事業について説明。

- ・令和7年度に文化国際課で実施する事業について説明した。

(委員) 小学生対象アウトリーチ事業を担当しています。最初音楽に興味のない子どもたちが、終わる頃には真剣に耳を傾けてくれて、こちらもやりがいを感じることが出来ました。いつもCDの音楽鑑賞をしている授業が多いので、音楽の先生からも好評を得ています。来年度も5月に校長会に出席し、プレゼンを行う予定です。

(委員) 4年生対象という事ですが、どれくらいの人数でされていますか？

(委員) 少人数のクラスコンサートなので、音楽室で行います。ピアノと弦楽器の演奏です。楽器の構造などに興味を持つ子どももいます。子ども達が歌って共演もします。

(会長) 個人的には上村吉太朗に興味があります。

(委員) 文化に触れる事が岸和田市はどこかに行かないと体験できない気がします。泉大津市の街角アートフェスに先日参加しましたが、そんなのが岸和田市にはないでしょうか？

(委員) 岸和田市には市展やアートマルシェ、文化祭もありますが、街角で…というものは少ないとは思います。岸和田市は沢山企画があるのに、保護者の方の意識が芸術に向かず、子どもの参加が少ないと思います。

(事務局) ドンチャカは市の主催ではないのですが、共催でTMOという実行委員会をつくり、商店街

の皆様と協力しています。どちらかというと商業振興のイメージなので文化国際課の事業ではありません。

(委員) 泉大津市の街角アートフェスでは、アートと名がつくのに芸術作品の展示が少なかったことが残念でした。それと岸和田市の色んなイベントはあまり周知されておらず、他課のイベントとのつながりがなく、まとまりがないように思います。

(事務局) 近江八幡市や九度山の芸術祭など、一定期間同じ場所でイベントを行うなど出来ればと思います。

(委員) 自泉会館で塩田千春展を開催したとき、岸和田市民は自分に関係ないものには行動を起こさないと感じました。なかなか周知する事が困難ではあると感じます。

■ 4. その他

・文化施設の再編について報告

今年9月から、行財政改革プロジェクトチームとして「文化施設の再編」を検討するプロジェクトチームを設置している。現在のところ、報告できるような事案はないが、今後報告事項や検討事項等があれば、随時、委員会で審議願う。

(委員) 具体的にどういう事でしょうか？

(事務局) 総量の縮減を目指しています。例えばマドカホールの機能を公民館に委ねるなどです。

(事務局) 浪切ホールは20年、マドカホールに関しては創立41年です。設備の老朽化や利用者の減少、これから的人口の減少など他市が抱えている問題も岸和田市も直面しています。具体的な案はございませんが、指針を決定しなければいけない時間も差し迫っています。進展がありましたら、ご報告します。

(会長) 本日ご発言なかった方に伺います。

(委員) 自分自身は文化振興に疎いと感じるが、今回審議された課題は町会連合会で引継ぎたいと思っています。私の感想としては岸和田市は公民館を有意義に活用していると思い、町会と連携して、地域の人々の作品の発表の場となっています。大きな文化振興ではないと思いますが、素晴らしいことだと思っています。

(副会長) 他市の文化振興も知っていますが、岸和田市は文化創造ビジョンをはじめ、きわめて進歩的なものが多いと思います。まず革新的だと思うのは第一に子どもに対して文化振興を行う事を第一目標としています。それが岸和田市の特徴と言えます。しかし具体的な案がなかなか出てこないのが実情だと思います。掲げている目標はきわめて崇高なものなので、これからも具体化に向けて皆さんと頑張っていきたいと思います。

■11. 閉会